琉球大学学術リポジトリ

原稿：『植民及植民政策』第八章 植民の経済的方面

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): （植270～289、290～308） 植270の原稿用紙、劣化著しい 資料形態： B4原稿用紙／2綴り キーワード (En): 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38372

矢内原忠雄文庫

史料名	原稿『植民及植民政策』第八章 植民の経済的方面（植270～289、290～308）
封筒番号	465
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成 17 年 11 月 21 日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号： 465

史料名	原稿『植民及植民政策』第八章 植民の経済的方面(植270～289、290～308)
資料形態	B4原稿用紙／2綴り
枚　数	39
頁　数	39
縦（cm）	
横（cm）	
厚さ(cm)	
書誌的事項	植民 植270の原稿用紙、劣化著しい 今泉分類記号： Y

琉球大学附属図書館

説明
ターゲット

この原本は、破損のまま撮影します。

第八章 植民の経済的方面

一 植民と經濟

二 資本主義經濟の發達に對する植民の貢獻

三 原住者經濟生活に對する植民の影響

四 移住者經濟生活に對する植民の影響

植民の經濟的方面、即ち植民の社會經濟生活に及ぼす影響並びに植民地の經濟的特色を觀察するのが、本章の目的である。

社會學上の基本的諸事實、例へば種族、國民の勃興、階級の分化、文化の發達等が植民による社會接觸に負ふ處多きが如く、經濟上の基本的諸事實も亦植民に基因する處大なりと思はる。人類學姻の經濟生活は勿論、原始的にして、適當に財產殊に私有財產、又

は労働と階級と称すべき社会的制度を缺いた。財産とは直接の使用品を超越するやうな貨財の所有（永続的）であるが、原始的種族にありては（極めて薄く）永続的な財産の観念を伴はず、一人の専有は

[illegible]

[illegible]

[illegible]

労働階級

り、酋長が征服地を部下に分割せしは土地に對する私有財産制の生なる一形態であつたであらう。[1]

ビュツヘャーは遊戯と労働とを区別し、前者は主として自身を目的とする本能的活動なるに反し、後者は他の目的を意識してなさるる活動力及び精力の使用であると為し、[2] 人類学者としては労働は其の内容に於て遊戯に甚だ近きものなりといふ。

況んや他人のために労働に服することと、逆に他人の労働を支配することとは共同生活の本能的要求である。人は自己のために他人の労働を変じて自己の労力の支出をば他人より他人に移すことによりて労働階級を発生せしめた。[3] 命令と奴隷制度とは其の最初の形式であつた。奴隷制度の発生は、たとひそれが唯一の動因にあるにもせよ、社会的の接触にある支配階級被支配階級の存立に負ふものである。

1) Ward. Pure Sociology. P. 273－278.

2) Bücher, K. ~~Entstehung der Volkswirtschaft.~~ 前出 I. S. 27.

3) Ward. ~~Pure Sociology.~~ 前出 P. 270－272.

社會の職業的分化が種族間の征服關係に起源せるは前章所述の如し。征服者は武士階級を作り、被征服者は農民階級として土地耕作に當り、而して商工業は第三者たる移入社會群の從事する處であつた。かくて一社會の種族的構成が複雜となるに伴ひ職業的分化は發達したりいる。[1]

(とのもの)(商業)商業資本の發達の如きは種族の如何に拘はらず、一種族内にあるものにあうすべて、種族相互間の現象であつた。[2] 蓋し同一種族内にありては略々同種の生產のみ行はれ、社會的条件を異にする他種族との間には自らに種類を異にする生產物あり、從つて種族内の

1) P.
2) Marx, K. Das Kapital. Bd. I. (Volksausgabe) S. 50-51.
Bücher. K. 前出. S. 60-61.
Weber. M. Wirtschaftsgeschichte. S. 174.

(植)

(相互的)贈與の形式にて生產物の交換せられ、次第に(定期)的なる相互的交換の性質を有するに至り、かくて(種族)内部に於ても(自ら)の如き(目的)としない交換を、從つて交換價値を目的とする(商業)發生せるに至る。かくて(商品)交換現象從つて立を業とする商業はそれ(他種族)との接觸により起るものである。

二三ノ

資本主義経済における拓殖の貢献

(一) 原始的蓄積と拓殖

社會祥の接触は在の如く交通の発達の発端的基礎であるが、近世資本主義的經濟に對する拓殖の影響は特に顕著なるものがある。

先づ資本主義經濟の進行の開始に當りては、說に於ては蓄積せられたる巨額の富の存在を要する前提とする。富の蓄積が前時代の生産物の節約によりて可能なれども、近世初期に於ける(特に)の飛躍的蓄積に對しては、(の原始的蓄積に於ける)節約よりも(は)寧ろ(も)略奪、(強奪、)一言にすれば暴力が大なる働きをなせること、人の知る處である。[3] 而して(寧ろ)略奪による富の蓄積に(は)よる資本主義的經濟の(は)自足的傾向に(は)乏つ中世經濟社會(は)に於ては(は)甚だ(も)多くを期待し得ず、寧ろ歷史上の事實として

略奪、強奪

(二) 拓殖と略奪

は何服歷迫(弾)、一言にすれば暴力が大なる働きをなすこと、人の知る處である。[3] 而して略奪による富の蓄積に(は)よる資本主義的經濟の(は)自足的傾向に(は)乏つ中世經濟社會(は)に於ては(は)甚だ(も)多くを期待し得ず、寧ろ歷史上の事實として

略奪、強奪

拓殖と略奪

廣義の財寶掠奪とは何等の對價を拂つず、單に何服の理由に基きてなさるゝ一方的掠奪であつて、西班牙領亞米利加の如きは此方法によりて巨額の金銀をアメリカ大陸より奪い去つ

[3] Marx, 前出, S.645.

6

274

た。訳れ、ゾムバルトの叙述すること如く、「餌を

あさる猛獣の如くにスペイン人は新発見の諸國を横行した。数世紀以來此處に蓄積せられし財寶が新征服者の手に歸するが爲めには譎詐暴力の數々が盡くされた。彼等は王候より身代金を搾取し、墳墓を開き、神殿より金板を剝がし、或は住民の裝身具をその身體より奪ひ取つた。……モンテズマより奪ひし財寶は地金一六二、〇〇〇ペソ、裝飾品五〇〇、〇〇〇デュカット。メキシコ首府征服の分捕は一三一、〇〇〇ペソ。コルテツは一五二八年スペインに歸るに際し金二〇〇、〇〇〇ペソ、銀一、五〇〇マルクを持ち歸つた。……インカの身代金及びクツコス一市の分捕のみにてドイツ貨幣三千三百萬マルクに達した。……」[4]

かゝる方法により西班牙葡萄牙は南方諸國に轉入せられたる金銀は多くは立葉の「銀船」(Silberflotte)の歸來を待ずして、英國和蘭佛國等の商業國に流入して其國貿易を發達し一基礎を形づくつた。即ち

4) Sombart. Der Moderne Kapitalismus. I. 2. S. 671-673

植民地貿易の掠奪性

植

275

立葉の西班牙諸島は、(殊に英國)海賊船を編成して西班牙の「銀船」(Silberflotte)の歸來を立西洋上に襲撃し直ちに之を掠奪し、又他方に於ては西班牙葡萄牙の貿易を獨占したるも自國に於ては產業振はざりしを以て、輸出品の大部分は西歐諸國より供給を仰がれる關係上立に對する支拂代金として、西班牙葡萄牙の掠めたる金銀は英蘭佛諸國の資本主義を涵養するの作用を爲したりである。

植民地貿易の掠奪性については、殆ど直

(但又は詐欺に

よりて不当なる對價を與へられる場合と、對價に關し任意的正当の契約の行はれた場合とを區別して說明する。前者は專ら暴力を以て不當の利益を收めるものであつて甚だ奪取性に富んでゐる。然るに後者に於ては必ずしも其の如く明瞭でない。例へば「アルタイ」發見の當時はロシア人の與へる鉄器一個に對しその中に押し込み得るだけの黒狐皮を提供した。十留の鉄器を以て五百乃至六百の狐の毛皮を容易ることであつた。之によりてロシア人の「アルタイ」人の住地を得たるは明かであるが、果して然うであつたか。

土人も亦一個の鉄釜に於て十分の（物価）を獲得してゐたか。思ふに此の場合ロシア商人は取りても鉄器も狐皮も共に高値として取引せられるものであるから、アルタイ土人に取りては共に使用殘として取引せられる。前者の目的とするは交換價値であり、その行はるゝ當時である。後者の目的とするは使用價値であ

1) Roscher, Kolonien usw. S. 262–263

ATHENA (4)

りその行為は消費に向けられる。故にロ
（商品市場における二品の）
商人は貨幣価値をもって転ずる
ことによりてその
の吸引の利益五割乃至六割といふことを
（計算し）
得るか、アルタイ土人はたい（鉄）金一個の使用価
（この鉄金）
値は四を充たすための不足の使用価
よりも大なりといふのみにて、その利益を計
算することは勿論不可能である。而して使用
（貨幣価値）
財の直接的物々交換に於ては
標準なきがために、一定の数量的比例は最初は全
然偶然的に定まる。(1) 一種の使用財に対し数種

のほか財が交換せらるゝ、場合の如きには、
（個々の）
特に偶然的事情以外は角財貨の数量的交換割
合即ち交換価値のめやすは高更に決定に困難であ
る。(1)
若し交換せらるべき価財が共にその社會
に於ける在来の厚史的生産物なるか、傳統的
に定まれる社會的高評価（等）より評価せらるゝ
ひとうか、(2) 前掲の例に於ける鉄器の如く外
来の商人により齎らされし新奇の価財に対
する需要と（ために何なる程度の生産物をあげなる数量
引換すべきかは、殊更偶然的の事情に依るもの

1) 例へば Missouri 地方の Indians に於ては 女一人にはして 刀二本、ブボン一着、被服一枚、小銃一挺、馬一頭及び黄の天幕一張の割合であったといふ。(Weber. 前出. S.212). 生産物也牛交換の場合にも物々交換のうちでも最も幼稚なる形式であった。(Marx. 前出. S.50. 注41.)
2) Weber. 前出. S.212.

273

ハ 人ガ一緒ニ為ル 事ハ 出来ナイ。 ソレハ 丁度 人ガ 二人 ノ 主人 ニ 仕エル 事ガ 出来ナイ ノト 同ジ デアル。 ソレ故ニ 人ハ 神ト 富トニ 兼ネ 仕エル 事ハ 出来ナイ。 ソレ故ニ 私ハ 汝等ニ 命ジテ 言フ。 汝等ノ 命ノ 為ニ 何ヲ 食ヒ 何ヲ 飲マント 思ヒ煩フ 勿レ。 又 身ノ 為ニ 何ヲ 着ント 思ヒ煩フ 勿レ。 命ハ 食物ヨリ 重ク 身ハ 衣服ヨリ 重キニ 非ズヤ。 空ノ 鳥ヲ 観ヨ。 播カズ 刈ラズ 倉ニ 収メズ。 然ルニ 汝等ノ 天ノ 父ハ 之ヲ 養ヒ 給フ。 汝等ハ 之ヨリ 遥カニ 優レル 者ニ 非ズヤ。 汝等ノ 中 誰カ 思ヒ煩フ 事ニ 因リテ 己ノ 生命ヲ 一刻ナリトモ 延ブル 事ヲ 得ンヤ。 又 衣服ノ 為ニ 何ゾ 思ヒ煩フ。 野ノ 百合ノ 如何ニ 育ツカヲ 観ヨ。 労セズ 紡ガズ。 然レドモ 我 汝等ニ 告グ。 栄華ヲ 極メシ ソロモン 王ダニ 此ノ 花ノ 一ツ ノ 如キ 装ヒヲ 為シ 得ザリキ。 今日 在リテ 明日 炉ニ 投ゲ入ルル 野ノ 草ヲ 神 斯ク 装ヒ給ヘバ 況ンヤ 汝等ヲヤ。 嗚呼 信仰薄キ 者ドモヨ。 然レバ 汝等 何ヲ 食ヒ 何ヲ 飲マント 思ヒ煩フ 勿レ。 此ハ 皆 異邦人ノ 求ムル 所ナリ。 汝等ノ 天ノ 父ハ 此ノ 凡テノ 物ノ 汝等ニ 必要ナルヲ 知リ給フ。 汝等 先ヅ 神ノ 国ト 其ノ 義トヲ 求メヨ。 然ラバ 此ノ 凡テノ 物ハ 汝等ニ 加ヘラルベシ。 然レバ 明日ノ 為ニ 思ヒ煩フ 勿レ。 明日ハ 明日ノ 事ヲ 思ヒ煩ハン。 一日ノ 苦ハ 一日ニ 足ル。

（ヨハネ伝 第十二章 二十四節）

（マタイ伝 第六章 二十四節 ― 三十四節）

（ルカ伝 第十二章 二十二節 ― 三十節）

（マタイ伝 第六章 三十四節）

（ルカ伝 第十二章 三十一

、且つ独占政策により座迫せらるゝ場合には
、植民者の暴利的な掠奪的な色彩を帯
英国
ぶ。東印度会社の初期に就ても巨利に就てマ
ルクスは左の如き述をなした。

「英國東印度會社は人の知る如く東印度に於ける政治的權力の外に茶貿易並に支那貿易一般及び對歐羅巴貨物運送の獨占權を有した。然るに印度の沿岸及び島嶼間の航海、並びに內地貿易は會社の高級役員の獨占となつた。鹽、阿片、Betel 其他の商品は富の掘れども盡きぬ鑛山であつた。役員自ら價格を定め、好むがまゝに不幸なる土人の利益を害した。總督も亦この個人的商賣に加はつた。その氣に入りの部下の得たる契約の條件は彼等をして錬金術者よりも巧みに無より金を生ぜしめた。大財産は茵の如く一日にして生え出で、富の原始的蓄積は一吉の叉拂を要せず一て成就した。……會社及びその役員は一七五七年より一七六六年に至るまでに印度人より六百万磅を搾り取つた。」[1]

一七六六年に至るまでに印度人より六百万磅を搾り取つた。[1] 一七六九―一七七〇。年の飢饉は英人が米を買占めて、而して法外な高價を以てせざれば再び之を売出すを拒絶したによるものである」と。[2] 東印度会社の最初の二航海(一六〇一年及び一六〇三年)の利益は九五%、最初の九航海はその利益の投資に対し平均一七一%が最初の四航海の利益は一六一二年の株式資本に対し八七一%に上つた。此の如き巨利は貿易の最初に止まり、其後和蘭との競争(英仏両国)による軍費の増大、英国の独

1) ~~Marx, 前出, S. 681.~~

1) 「1757―1765年に於て Bengal の諸候より強奪せる贈物のみにても 5,940,000 磅に上つた」(Zimmermann. Kolonialpolitik. S. 284).

2) Marx. 前出. S. 681

由ホ基ヘ史物ン、所ヲ

由ホ基ヘ史物ン、所ヲ

由ホ基ヘ史物ン、所ヲ

つた。そも主なるものは地租であつた。「之は本来地租といふよりも、寧ろ没収に近きもので あつた。何となれば多くの場合に於て農夫の収益の半以上が地租のポケットに収入を 入れ而更に一の掠奪であつた。工業的生産者 から「投資」(investment)と呼んだ。而して会社は其の地租を投資の指定 物の買上代に用ひ、之を以て国内の工業的生産物の買上に 充てた。「之は 商人の資本 の供給及 補助貨幣 の第二次 的機能 地主地 生産の掠奪性

商人の資本の供給及補助貨幣の第二次的機能

(二)

商人資本は一定の価値を有する貨幣を投じて一定の価値を有する貨幣を得ようとするものである。即ち $G-W-G'$ の形式を有する。

説明
ターゲット

この原本は、破損のまま撮影します。

ATHENA (4)

13

282

(ゐたか、更に)

迹 資本主義社會は商品流通の經濟なるが故に
勢ひ貨幣經濟である。蓋し貨幣の存在は不特
定交換を目的として生産せらるゝ貨物に對し
て販路の可能を暗示するものである。貨幣は
又常備者に對する債權關係維持の上に於
て、及び事務仕入等大量生産實行の上に於
て、市場に巨額の流通あるを必要とする。而して
貨幣の素材として最も重要なる金銀の供給が
近世の初期以來主として メキシコ、ペルー(千六
世紀)、ブラジル(十八世紀)、カリホルニヤ、濠

洲、南阿(十九世紀後半)等の新天地より多
數著なる事實である。

アダム・スミスは長き地代論の章の中に、アメ
リカよりの(莫大なる)金銀輸入の物價に及ぼしたる影響
を論じて居る。(即ち)彼は「過去四世紀間に於ける
價値變動に關する(枝)論」に於て、(此期を三期に
分ち)第一期(一三五〇年乃至一五七〇年)は銀價下落
の傾向にあり、第二期(一五七〇年乃至一六四〇年)は銀價上向きである
時々 時期
は銀價下落し、その以後は漸騰上向きである
となしたが、第二期に於ける銀價下落の事由

14

は專ら アメリカに於ける豊富なる 足銀鑛の発見に ありとし、(カディズ) 及 (リスボン) に於ける輸入数量を見た。[1] 「政治家の算術は、産業及びみにても一ヶ年六百万磅に上ると見た。[1] 「政治家の算術は、その期間に於ては、産業及び改良の進歩しつゝあり、従つて銀に對する需要は增加しつゝあつたに違いないと云うが如き事實の考慮を缺いている。[2] 「基本的原因の考慮を缺いている。[2] 「基本的原因の考慮を缺いている。[2] 「基本的原因

ATHENA (4)

15
積
284

1)て、「穀ウ飯ノ食実價格ノ減少ニ依スルコト
カ認メラル」リ レキシスも亦十六世紀ニ於ケル
所謂「價格革命」ニ際シ、比世紀ノ始ト末トヲ比
較シテ物價ノ昂騰ニ驚キシ事ヲ述ベ、主トシテ、アメリカヨリノ流入ニヨリ函數
ノ急激ナル貯蓄ノ減少ニ依ルモノナリトセリ。

茲ニ、貨幣價値ニ影響ヲ及ボス諸要因ヲ考察スルニ、

(1) 貨幣ノ使用ハ、從來ノ物々交換ニ比シ、取引ヲ極メテ容易ナラシメ、取引
量ヲ増加スルニ至ルヲ以テ、從ツテ貨幣ノ流通速度ハ、増加ノ傾向ヲ有スル
ニ至ル。スミスも亦「利益ハ大ナル市場ニ依リテノミ改良ヲ見ル」ト述ベ
タルガ如ク、各生産物ノ價格騰貴ヲ以テ、社會繁榮ノ兆ト為シタ。3)

(2) 從來ノ物々交換ニ比シ、貨幣ノ使用ハ、從來ノ物々交換ニ比シ、取引ヲ極メテ容易ナラシメ、取引
量ヲ増加スルニ至ルヲ以テ、從ツテ貨幣ノ流通速度ハ、増加ノ傾向ヲ有スル
ニ至ル。スミスも亦「利益ハ大ナル市場ニ依リテノミ改良ヲ見ル」ト述ベ
タルガ如ク、各生産物ノ價格騰貴ヲ以テ、社會繁榮ノ兆ト為シタ。3)

右ノ如ク近世初期ニ於ケル アメリカ地方ノ發見ハ、實ニ貨幣流入ヲ通ジテ
ヨリノ生産ノ増加ヲ刺戟スル事極メテ大ナルモノアリ、且ツ物價ヲ騰貴
セシムルコトニヨリテ生産ヲ奬勵スル效果ヲ有シタ。スミスも亦「利益ハ大ナル市場ニ依リテノミ改良ヲ見ル」ト述ベ
タルガ如ク、各生産物ノ價格騰貴ヲ以テ、社會繁榮ノ兆ト為シタ。3)

6

2) Lexis. Allgemeine Volkswirtschaftslehre. S. 102. (田辺訳. P. 178)
3) Smith. 前出. P. 227.

1) 同上. P. 198.

十六七世紀に於ける甲州國の流入の如く資本主義の萌芽的發生を準備したる如く、十九世紀後半に於けるカリホルニヤ、濠洲乃南阿よりの金鑛發見は、[1] 資本主義の全盛を確立せしむることにより(レキシスが文化の一進歩と称する所の、)近世資本主義に決定的に千八百九十年代の始めより全盛を誇すべき、十九世紀後半の第二期植民政策に貢献した。「金本位の完全なる勝利は確かに可能は可能たらしめ可能となつた」。[2] 而して「可能」はまた十九世紀後半の第二期植民政策の(時代)とも称すべき、十九世紀後半の第二期植民政策の(発達)には(又)「商品流通」

資本主義經濟の成立(及發達)には「商品流通」の存在を必要条件とする。「商品流通は貨幣と共に、商品流通の特殊的法則により、可能となりたるものである。

世紀後半の植民的法則により、可能となりたるものである。

資本の出発点である。資本は、商品流通の存在を必要条件とする。「商品流通」は貨幣と共に、商品流通の特殊的法則により、可能となりたるものである。

世紀後半の植民的法則により、可能となりたるものである。

植
285

1)

2) Lexis 前出. S.105–106. (田北訳. P.188)

17
植
286

ATHENA (4)

を向いた」とマルクスの言へる如くに、植民地
初期の植民政策は此意味に於ても資本主義
の母胎発生に對する有力なる刺戟であつた。
植民地社會の重要、植民地軍隊及び艦隊
航海の重要は政治的商業に對して直接的に擡頭
させられ市場となつた。[2] 植民は正しく温室的
に商業及び航海(海運)を成熟せしめた」[3]のである。
資本主義的生産に對する市場としての植民
地の效用を最も理論的に說明せるはルクセン
ブルグであつた。彼女によれば市場としては

資本主義の存續条件としての植民地市場

植民地の存在は資本の擴張的再生産の必要
條件であります。曰く、

「資本蓄積は全體として、具體的なる歷史的なる過程として、二つの異れる
方面を有す。一は餘剩價値の生産場所——工場、鑛山、農場——及び商品市
場に於て完成する。蓄積は此の方面よりのみ觀れば純然たる經濟的過程にし
て、その最も重要なる部分は資本家と賃勞働者との間に行はれる。……
「蓄積の他の方面は資本と非資本的生産形式との間に於て完成する。その舞
臺は世界。その方法は植民政策、國際金融、勢力範圍の政策、戰爭」。[4]
即ち資本蓄積のためには先づ餘剩價値を生産
し、次いでこを實現せざるべからず。換言すれば即ち餘
剩價値の物的表現たる餘剩商品量は市場に於
て賣却せられて貨幣形態を取ること
なければならない。
然らばその市場にかをいかを求め得べきか

1) Marx, Das Kapital, Bd-I, S. 104
2) Sombart, 前出, S. 776-784.
3) Marx 前出 S. 682
4) Luxemburg, R. Akkumulation des Kapitals, S. 430

資本家的生産社會自らそう消費者たらるを得るや。抑も生産物の增加は（社會生産力に伴ひて）無制限に增加し得べきも、消費力の增加は必ずしもこれに伴ふことを得ない。若しも絶對的（インディヴィデュアル）消費力を論ずるならば固しく不定に增加するを得るであらうが、資本主義的社會の（一定の）特殊なる分配關係（における）消費力は生産力の增加と共に增かすることは出來ない。何となれば勞働者の所得の一部をなすは（勞働者自己の）その所得は「多少

無狹隘なる限界内に於てのみ變動する最低額」に押しつけらるゝものなるが故に、勞働階級（の消費）は（一定の）生産物を悉く消費（購買）し得ざるが故に、（剩餘價値實現のために）（必要なる）剩餘價値を實現するために（自己の）生産物の消費をたる階級は存在せざるものである。而して資本家階級はその手に資本の蓄積に從ひ益々增大する剩餘價値を（自己の）消費に充つるの需要によりて（自己の）剩餘價値を實現すると得べきも、社會總資本に關して論ずれば、一方の資本家の（剩餘價値）消費は他方の資本家の（資本家たる）需要たるの故に、兩者相殺して（資本家階級の）社會的總生産物の交換の結果なきものである。

1) 同上 S. 315

19

288 積

る。且つ、資本家的再生産の条件は蓄積にあ
りて消費にあらざる故、資本家自ら蓄積せう
るべき餘剰價値分の実現者たる消費者となる
は論理的不可能である。(不変資本及可変資本の)単純再生産なる恢復
は及び擴張せられた餘剰價値を生産物の消費は蓄積
我社會の内部に於て可能であるか、「餘剰價値
の資本化せらるべき部分は立に五て労働者
及び資本家により実現せらるゝこと不
可能である。蓄積の目的を以てする餘剰價値の実
現は、さん丈に、單に労働者と資本家とよりうみ
出さるゝ社會とは一つの解くべからざる課題
である。[1] その時には、資本主義社會の
両階級以外の「第三者」が、蓄積せらるべき餘剰
價値却ち剰余生産物を買ふ外に、
買手の不可缺条件であり、それなければ
産物の買手人として存在することは、資本主義
的な生産の不可能である。[2] この
資本主義社會は没落すべきものである。
「第三者」は即ち非資本的環境であり、帝シテル
クセンブルグのいふ非資本主義的環境とは農
業地方であり又植民地である。[3] 故に植民地に

1) 前出 S. 320-321
2) 前出 S. 315
3) 前出 S. 338-339

棉花

(四) 剰余生産物の供給と拡大

ちる市場拡張は資本主義(経済的)生活の維持発展の条件たるのみならず、又その維持発展の条件である。

(次に)

(又)植民地は資本主義社会より商品を買入れ、之に対して植民地生産物を売る。即ち(植民地よりの)原料品及び(植民地への)食料品の供給と拡大とである。

(発生条件)

ある資本主義的生産の大量的供給は植民地の成立、維持、及び(不断的)拡張を可能ならしむる一条件である。一例を産業革命の中心たり、且つその後資本的生産の大宗として発達せる木綿工業にとりて考へ見よ。

英国に於ては国産の(原料)綿花は(同業組合的)制限の下に立たれたよりは、(同業組合的)制限の下に立たれたよりは、(同業組合的)制限の下に立たれたよりは、

の棉花があった」。[1]

而してトインビーは十八世紀に於ける木綿工業の発達を叙して、「木綿製品の輸出額は実に驚かし来った。一七〇一年 二三、二五三磅。一七五一年 四五、九八六磅。一七六四年 二〇〇、三五四磅。一七七〇年 四九、九八〇磅。一七五一年の輸出額すら羊毛品の輸出額の二十分一を占むるに過ぎなかった」と言ふ。[2] 然るに恐らくはこの驚くべき産業革命は此産業に就てその偉力を発揮し、最も重要なる産業上の地位を之に与ふるに至った。[3]

錦の供給は資本主義的大企業の発生内在なる必然に、棉花の産地たる植民地その他の経済的重要さは必然に増進した。それ故に米国、印度、埃及及びアフリカ諸地方の棉花栽培は著しく奨励さるゝに至った。而して之等の諸地方は資本主義的生産方法の導入によりて、之等の地方に於ける資本主義社会の需要激増に応じ得たのである。ルクセン

3) 1923年に於ては英国貿易の輸入品中棉花は食料品に次ぎて第位を占め（93,499,000 £）、輸出品中木綿製品は最第位にして総輸出額の二割強を占む（177,330,000 £）。(Statesman's Year Book. 1924)

1) Smith, A. W. of N. Vol II. P. 62-63
2) Toynbee, A. Industrial Revolution. P. 26

ブルの如の記述は這般の消息を傳へる。曰く、

「在來の產地よりの原料品供給のあらゆる動搖及び中絶に備へ、並に社會需要の急激なる增加に適應するか爲めに、新なる原料產地の大規模的開發を急速に行ふは、資本蓄積の彈力的、飛躍的なる過程に於ける必要不可缺の前提である。南北戰爭の結果、英國に於て米綿の供給杜絶し、有名なる「綿の飢饉」がランカシヤーに起りたる時、有力なる棉花の新栽培地が恰も魔術の如く短時日の間に埃及に於て成立した。……かくも短時日間にかくも驚くべき變革を成就し得たるは資本及その技術の力であつた。併乍ら幼稚なる社會關係を有する(先)資本主義的の土地に於てこそ始めて、物的及び人的生產力をかくも力强く支配し得て右の奇蹟を起したのである」。1)

かくの如く植民地は(資本)都合の好き物的条件たる豊沃なる處女地及び低廉なる原料品及び食料品の供給を有するが故に、資本主義的生產の物的条件の供給源として必要であるが、尚此等に關しては單に生產の物的条件の供給に止まらず、又資本家の平均利潤率維持の要件となる。即ち之等生產の物的条件の廉價なる供給は(不變資本の價値を小ならしむることにより)平均利潤率の騰加と共に、平均利潤率を高むるために役立つ。それ故に資本は常に益々全地球をその利用下に置き、生產手段について數量的並に品質的に世界的の自由を得る至らんことを努力する」のである。2)

1) Luxemburg. 前出 S. 329

2) 同上 S. 328-329

(4) 株式会社 植民地貿易は資本主義的企業形態の発達に最も深き因係を有する。蓋し植民地貿易の利益の大なりしこと、(因縁に)それの危険の大なりしことは共同出資による大企業的形態を成立せしむるに甚だ有力なる刺戟であつた。植民地貿易は、たとひ上述の様な物産の交換に基く利益を伴はざる場合と雖も、特殊生産物の交換に基く利益を伴ふ場合と雖も、株式会社の性質上物産するものである。社団組織の濫觴と称せらるゝ所の、十四世紀に於ける和蘭東印度会社(1)は植民的企業であつた。(1) 又世に於ける株式会社の嚆矢たる和蘭及び英国の東印度会社は主として東印度貿易を営なる植民会社であつた。

和蘭東印度会社(2)

和蘭に於ては一五九八年頃より東印度貿易に従事する者が会同して地方的会社組織を作つたが、一六〇二年に至りその等は会同して一大東印度会社を設立し、その股金を募つて三千六百株(一株三〇〇〇フロリン)より成る株式組織となつた。(その株式は譲渡の自由を認められたが、その株式はアムステルダムの商会議所(Kammer, Chamber)に属し

1) Genoa の有力なる個人等が政府に財政的援助を為すべく、その代償に、[illegible]領土を征服し、政府より租税を受くる迄之を統治するの権利を認められた。かくの如き植民地を Mahonenses, その領域せる国家を Mahona 或は Maona と称した。彼等は 1346年に Chios を[illegible]ギリシャ人より、Phocaea をトルコ人より征服完成した。[illegible] Maona は[illegible]株式会社であり その株式は譲渡が認められた。かくの如く Maona は統治権を有する植民会社にして後の Chartered Company の前型であつた。(Keller, Colonization. P. 71-72. Sombart. 前出. I. 1. S. 441-442)

2) 和蘭東印度会社については Keller, Colonization. P. 389 以下. Roscher, Kolonien usw. S. 252 以下。

た。[3] 各地方の商業会議所(chamber)各々其会議所は自ら船舶の艤装商品の仕入等を促すし、又貿易船はいずれもその出発港に帰着する定めであった。併しながらこの事(会議所)を統轄するために十七人より成る東印会社(東印会社)の取締役会あり、航海船舶の時期船舶の度数等を決定した。会社はその特許状に於て政府より受ける特権は、喜望峰よりマジエラン海峡に至る廣汎なる地域に於ける貿易独占権、並びに土人君主との条約締結、軍事上及び統治権の高権等

3) 各地方の会社は各々相合して商会(Chamber)をつくり、之等の商会が合して東印会社を成したものである。而して東印会社の総資本中 56.9% が Amsterdam に、20.6% が Zeeland に、7.3% が Delft に、2.7% が Rotterdam に、4.1% が Hoorn に、8.3% が Enkhuygen に属した。(Roscher. S. 253)

英国東印会社

英国の東印会社は一六〇〇年に(組合 Regulated Company)として設立せられた。[4] 之は各自独立の資本を有する営業者が互に協定して一般的規則に服従するものにして、その範囲内にては各自の為に競争あり、いはば今日のカルテルの如き組織であった。然し十七世紀に至り一般的の勅許の下では一航海毎に(参加商人)各別に損益を計算したのであったが、一六一二年に至り一定の期間を限り(一般的)毎に(その)帝国の用途に充つるために共同資金(ジョイント・ストック)をつくり

4) Roscher. 前出 S. 254 以下. Cunningham. The Growth of English Industry and Commerce in Modern Times. P. 255 以下.

(株会議所が重に)　(株会議所)

植民ばかくの如く舊社會に於ける資本主義の發達に重大なる關係あるものであるが、植民地に於ける對土人經濟的活動は特に資本主義的特長を極端に現はす。

前章に述べたる如く植民事業は又

險なること、土人の叛亂抵抗を征服する必要等のため巨額の資本を必要とするが故に、西班牙葡萄牙の如く富裕なる王室が植民地經營に當りしに反し、和蘭英國の如く私人の經營に任せられし國にありては到底一個人の事業としては十分の成功を見る能はず、且つ同業者間の自由競爭は土人に對する買價を釣上げ本國に於ける賣價を引下ぐることによりて植民地貿易の利益を減少(したる)するが故に Regulated Company 或は Joint-stock Company を組織して獨占的の利益を收め、又必要なる大資本を支配するを得たのである。而して國家は財政的援助を報酬として廣大なる特許狀を會社に賦與したのである。(6)

蓋し植民地貿易及び經營は航海の長期にして且つ危

せるものであつた。

理事をして之を運用せしめその利益は出資に應じて分配するの制度を立てた。併ら之も間もなく的の性質を有するものであつた。

から、一六五七年に固定の株式資本を有するに至つた。此會社も亦貿易獨占權の外に、一六一七年以來は宣戰講和、條約締結、裁判權等の高權を

も特許せられた。

かくの如く近世初期の開拓事業は多く會社組織によりて行はれ、殊に英蘭二國の東印度會社は率先して株式組織を有

6) 英國の植民會社中、Merchant Adventurers (or Hamburg Company), Eastland Company, Muscovy Company, Levant Company 等は "regulated company" であり、又 East India Company 或は Africa Company, Hudson Bay Company 等は "joint-stock company" であつた。(Cunningham).

5) 1612年(第一回)の調査出資 429,000磅、1617年(第二回)には 1.600,000磅、1631年(第三回)には 420,700磅であつた。(Roscher. S. 255)

植民的恐慌

株式会社組織は斯くの如く植民的企業に於て起つたのであるが、

植民事業に於ける影の如く大資本を推進する株式会社の発達は、(植民地貿易の巨利に伴ふ)往々にして株式の失敗(投機の好目的たらしめ、従つてその)失敗せる場合の影響は甚だ大なるものがあつた。

史上顕著なる恐慌の実例たる英国の南洋会社(Compagnie (South Sea (Company)[7]及び仏国の西洋会社(Compagnie d'Occident)[8]は共に植民事業であつたのである。

三

植民はかくの如く旧社会に於ける資本主義の発達に重大なる関係あるものであるが、植民地に於ける(資本主義的)経済組織は(また)(微妙)な形態に現はれる。前章に述べたる如く、植民は文化交流若くは二人

植民の多数者に及ぼす経済的影響

7) 英国の South Sea Company は南アメリカの東西両海岸に亘る広き範囲に於ける貿易独占権を特許せられて1711年に設立せられ多くの資本を擁して前景気よく、その株式は~~投機熱~~の投機により頻りに奪買したが1720年に早くも破綻して恐慌を生じ、英国人に巨額の損失を与へた。(Zimmermann. Kolonialpolitik, S. 65)

8) 仏国の Compagnie d'Occident は有名なるスコットランド人 John Law の設立せしものにて当時の~~植民~~会社を~~合併して~~統合せる大会社(1719年に)となり、国王より大なる商業上及び政治上の特権を与へられ、その有望なることの喧伝せらるるや、株式は~~異常~~投機的に暴騰したが、その後~~殊に~~ Louisiana の開拓が~~予期~~に反して不成功なるや、株式は急転直下に暴落し、Law は1720年暮に逃亡するに至つた。(同上, S. 79-80)

ATHENA (4)

植
290

貧富者
経済的生産の
資本主義化

代階級を異にする二社会群の接触なるが故に、経済生活に於ても亦団体の接触を見るなきにあらずと雖も、極めて稀有の現象に過ぎない。而して近世における資本主義的発達の段階にあっては、極東諸国は概ね未だ資本主義化せざる理想状態にあるが故に、極東諸国と欧米諸国との接触は、資本主義社会と非資本主義社会との接触である。資本主義はその創業時代において、幼稚なる非資本主義社会の無限なる購買力を当てにして、先ず海外市場の開拓に進出する。

外部的強制により

而して土人社会の自然的経済組織を破壊して、これを資本主義的経済組織に改造することを要求する。即ち資本主義的発達せる資本、技術及び思想を以て、幼稚なる旧社会の資本、技術及び思想を征服する。征服者は発達せる旧社会の資本、技術及び思想を有する理想的権力者として、旧社会の政治的或は社会的支配者として、幼稚なる非資本主義社会の未開なる住民の幼稚にして低度の経済生活に入り来るあるが故に、資本主義的社会における労働者階級は従来の労力に比べて資本主義的搾取は従来の数倍に行はるるのである。

資本主義の歴史は生産手段と生産者との分離の歴史である。土地(者が独立の生活を営むための基本条件)から農民が引き離されるや否や、資本主義化の第一歩が始まる。地主(耶社者)が独立の農民を土地から引き離すには先づ生産手段(農具)に土地を加えねばならぬ。土地を地主(耶社者)の資本の下に持さねばならぬ。土地(耶社者)の為めに共の土地を没収(負住者)するにより又は詐欺的売買(手段)により又は共有制(共産)を有する時は社会が土地(負住者)の所有権(負住者)を解除(前提として)するにより又は共有財産制の実施なる輸入適用を敢てするにより、その生計の基礎を奪い去って彼等を無産階級化するの結果を生じやすい。[1] 地主(耶社者)に対して適法なること、又は共に対して適法なること、又は共に対して適法なること、又は共

ATHENA (4)

次には又植民者は多数の労力をよび
はなるぬ。その為めに、労働の報酬を有せざ
る土人を直接間接に強制し、或は外部より労
働者を国体的に輸入する。奴隷制、契約移
民等の手段により、(資本家的)植民者の要する労力を強制的に支配せるか
は、第十三章労働政策の條下に於て述ぶるで
あらう。(植民者)が自由植民地の状態
を脱してより大なる純
利を双手にかざして侵入するとき、忽ち労働
は土地を失ひ、家内工業者は(営業)業を失ひて無
産の労働者と化せしめらる。安定すあとをなさ
ずとはかくて予期せらるる。植民者は資本家階級

植民地に於ける企業の特に営利的たることも亦植民の特質に基く。植民の動機それ自體が多くは営利にあり、而して資本家階級は同時に征服者にして土人と同一種族に属せざるにより労力及び土地生産力の掠奪は憚る處なくして行はれた。生産の方法のみならず生産の種類数量等も獨占的営利の目的を以て定められたること多し。メキシコ、ペルー等の金銀鑛採掘。西印度の砂糖。闌領

東印度の香料茸はその著例である。之等はいつれも高価生産であり、而かも此の市場向の高価を産であつた。之等植民地に於ては内地

30

297 種

9

市場即ち売手の購買力を目的としては剰余
多大の生産を為すを得ざるが故に、勢い事
輸出向生産の場合もまた同じ理由のため
物の独立は売手地方民の消費物にあらず、そ
のそれは他等の必要満足の事目的にはあらず、
全く在外大なる地主者の営利のみに当働に
服せしめられるのである。地主地に於ける
その労働はかくのごとき意味の労働は自由なる労働
方働者による労働が強制的労働(奴隷的)とは強制
かまるを得ない。(植民地(plantation)
的労働により、特に市場生産を目的とする場
産物生産の資本であって、奴隷制度は
産物生産の資本であって、奴隷制度は
制に移る過渡的現象たるもの
に新たな市場獲得を目的とする
る傾向を維持するためには生産物の焼却を敢てしたる
制限し若くは過剰生産物の焼却を敢てしたる
とす。居住者の生活必需品の供給に不足を来
たすとも、輸出(市場向特殊生産物の)
ずとも、輸出による利益の目的を達す

1) Weber, Max. Wirtschaftsgeschichte. S. 82.

2) Virginia, Maryland 等にはタバコを栽培したが その価格を維持するため「州会の法律によりて その栽培を一定本に制限し …… 又新場の過剰供給を防ぐ為め、(和蘭人がこの香料について為したと同一の様に、黒奴一人につき一定数量の割合にて タバコを焼却したことも、常例の年には屡々あったという。」(Smith, A. Wealth of Nations. Vol I. P. 159.) 和蘭人の東印度における香料植物の破壊、過剰生産物の焼却等については Smith, 同上, Vol II. PP. 26. 135.

30

植民地産業の目的を達するものとせらるゝ。「英人ハンター」(Sir William Hunter)[illegible]印度について曰く、輸出増加は土人が常に十分に食ーてゐるとの証拠にはならない。若し印度の人民が自己の飢を満たすならば輸出は起り得ないであらう。その輸出は印ち空虚の胃腑を暗示するに外ならない。」と。かくの如き言は屢々誇張に陥り易い。而かも植民地の貿易額の増進を以て直ちに植民地社会の経済的幸福を増大するの意味なるに足るであらう。何となれば産業により得らるゝ利益は企業家たる植民

1) Vignon, L. [illegible] Un Programme de Politique Coloniale. P. 171–172.

31

植

300

の懐に帰し、その生産に従事せしめらるゝ植民地人は却ってその貧乏の為大なる割合の消費物を産額を減じーめらるゝかもしれない。

這般の消息は西印諸島に於ける奴隷労働廃止の結果(もたら)した裏面より説明(ときあか)する事である。

「奴隷廃止の直接にして最も早き結果の一は植民地産物の種類変化の傾向であった。解放せられたる土人――六十万乃至八十万人――の大部分は直に従来輸入に仰ぎたる食物を自ら耕作し始めた。……砂糖の産出は衰へ従てその輸出は減じた。一方農産物の産出は前より も豊富となりその輸入量は減少ーた。かくて外国貿易の総額は勿論入共に減じたけれども

ATHENA(4)

、植民は益々多く自己の食料を生産するに至つた。」[1] 而してその方が植民に取りて幸福な生活であつたと云はねばならない。

植民者の資本家的政府の於果植民地の経済は生産額及び貿易額に於て躍進的に増加する。仍て植民地の発達と植民者経済の繁昌とは常に区別して観察せざるを得ない。蓋し資本家的植民は植民者社会に於ける生産手段を失ひたる生産者、即ち労働階級と対立す。この植民者の所有者に対して植民地の資本家階級たる植民者は生産手段の所有者として植民地の労働者を搾取し、之に対して植民地の労働者は植民者の資本家階級と対立する。

植民地の社会革命は何れの社会に於ても資本主義への推移時代に経験する変化ではあるが、植民地の場合はそれが外来の強制的条件に基くことに於て特徴のあり、又植民者の資本化は一層深刻なるものがある。そは彼等植民者の地位の変化が経済的弱者たるのみならず、政治的被征服者たるの事情に基く。それ故に資本家的植民地の発達は屢々植民者の地位の向上を意味せず、却つて

1) Morris. History of Colonization. Vol II. P. 214–215.
Leroy-Beaulieu. Colonization. P. 198–199.

31

の貧弱化を[redacted]踏台とする。(のである)我住者の労働や生産物は(殆ど資本)(植民者)のために奪取されてあらうが、同時に彼等の犠牲は償はれず、(植民者)の欲望の絶対は増加せられ、而して之を満足せしむべき消費財は豊富なる剰余に依て欲望の対象となりて来るの実情である。(植民地)は(本国)より集められたる[資本]の便は必ずしも与へられても之が営造の経費は[植民者]の負担とせられ、(植民者)は(本国)よりも重き租税負担の下に苦しめられたる如き状況である。[1]

植民地の道路建設は首府の周囲の荘麗なる車馬道築造のために中止せられ、[植民者]の住宅の発達を以て植民地の発達と[誤]解する。植物園の用途に[誤]られし費用は市街公園の費用に転用せられ、植民者の幸福と同一視するを得やうか。

植民者は永久的に無産の労働階級たるは勿論、植民者は永久的に支配者たる地位に止まるや。換言すれば植民者の絶対力は永久的に植民者に対抗するの実力に迫向上するを得ざるものである。思ふに[redacted]

1) Reinsch, P. Colonial Government. P. 203.

植

903

34

四

4

ろ

ろ

ろ

ATHENA (4)

移住植民地の性格の変化

植
304

る植民者の経済的地位の向上。当初は人口も少く土地も未開なるが故に、植民者の経済的地位は万事幼稚にして自給自足的であり、多く物々交換行はれ、又は北米植民地(煙草、毛皮等の用ひらるゝ)。然るにかくの如き自然経済的状態は植民者に固有なるものではない。彼等を発展せる貨幣経済社会よりその伝統的習慣を有して新しい自然経済的環境に移住せるものであって、ロッシャーの言へる如く、「植民地はその初期に於ても商人がアダムのタイプとは異なるロビンソン・クルーソーのタイプである」[2]から、植民地は、旧社会に於ける如き経済関係を実現する。アダム・スミスは「無人の地方、或は住民の人口稀薄にして土地を譲るが如き土地を占領して文明国民の植民地は、他の如何なる人類の社会よりも急速に富強に赴く」のであって、それに依て社会的及自然的の事由があり、自然的条件は生産力の大なる土地の

発達の急速

1) Vermont にては1794年の頃 農者は馬を買ふ為めに菜品を提供し、印刷屋は穀物、牛酪等の対価として労働を提供した。Maryland に於てもタバコが主な支払手段であった。(Roscher, 前出 S. 93–94)

2) Roscher, 前出, S. 97

豊富に存在することであり、社会的希少に於て既に発
、地代は社会はその分立の最初に於て既に発
達せる文明国の法律制度及び技術上の大変を
有する移住者より理解せらるゝ、かぬてあること
とを説述した。[3] 蓋し、——

[4] 土地は豊富にして地価も無代価か、或は極めて廉価であるから、移住者
は容易に生産手段の所有者となり得。且つ処女地の生産力は豊饒であるから、
収穫も亦多いのである。而してこの豊かなる生産力を有する広大なる土地を開
拓するに當りて必要なる資本と労力とは共に不十分であるから、地代の廉なる
に反し、金利と労銀は旧社会に於けるよりも遙かに高い。[4] 故に
之が為め貧窮労働者も亦容易に自己の地位を改善して生産手段の所有者と
独立の企業を経営するに至る機会が多いのである。

労銀は高く
土地生産力大なる
場合

階級的
独立の
顕著なること

には高き労銀を支拂ひても労働を使用して生
産に従事する事が資本利得を増かする所以で
ある。即ち労働の供給による生産増加額が、
労なる労働の需要に基く労銀の騰貴よりも
大なる限り、資本家は労銀の騰貴を承認する
であらう。之がために労銀労働者も亦容易に
自己の地位を改善して生産手段の所有者とな
り独立の企業を経営するに至る機会が多いの
である。前章に述べたるスワンリバー地方地
の事例は、[5] 土地豊富なる植民地に於て労働者

36

積

305

5) P.

3) Smith, A. W. of N. Vol. II. P. 66-67

4) Roscher. 前出. S. 56-59 に米国に就ての実例を挙ぐ。例へば、「Franklin が Observations concerning the peopling of countries etc を発したる時 (1751), 英国の金利は三乃至五%, 北米の金利は6乃至10%なりきと言ふ等。(S. 57). ——今日、日本銀行の割引歩合二銭に對し、朝鮮銀行の割引歩合は二厘高の二銭二厘である。

の自立することの容易なるを示すものである。

ウエークフィールドの植民案の一要点たる土地物の高價拂下制度は、かくすることによりて労働者が短時日の間に土地所有者となりて貧乏階級の父母たることを妨げ、一つには植民地に於ける労働者の供給を計らんとする意図であった。[1] 植民地に於ては昨日の労働者も今日の富豪たるは比較的にその機会が多い。従って植民地に於ては昨日の労働者も今日の富豪たるに就て見れば、資本主義的階級對立が旧社会に比して歴然たるさまざまのものがある。[2]

地主的産業の発達は近世経済の脱生的発展を示す

植民者の産業は農業(一通常)及び外国貿易を以て始めとする。農業は自己の食物を生産する外に輸出向きの作物を栽培し、之をヴァージニア、メリーランド(旧社会よりの必要品を買入れた。例へば Virginia, Maryland 等には穀物よりも煙草を多く耕作したが、人口増加に伴ひ食物供給の必要上次第に穀物耕作を増し、煙草は(栽培は)専ら地へ移った。メリーランドにては一六四〇年頃に煙草栽培者は各々二エーカーは少くも小麦を耕作するの義務を課せられたという。[3] かくて輸出向農産物は次

植 37 326

3) Rozcher, 前出 S.99

1) P.

2). 植民者中の労働階級は、その社会が植民地大に発展と備わる限り、その地位を改善し独立の企業者となり得る見込みが多い。旧社会の労働階級は之に反して固定的な賃銀労働者階級に属す。植民地に於ける土人労働者は同じく独立なる企業者となるの素質を有せないが、旧社会の賃銀労働者に比較は、社会的に社会的従属者なる点に於て、更にその地位は不利である。

38
植
309

ヲ以テ国内需要向ノ作物ニ代リ、同時ニ工業ガ発達スルノ傾向ヲ有スル。

カクノ如ク植民地ニ於ケル必要品ノ多クハ（発達ノ初期）輸入ニ仰カザルヲ得ザルカ故ニ、其ノ全部ハ外国ノ支払ニ充当セラルヌハナラヌ。而カモ国内生産ノ発達ハ資本ヲ需要スルノ故ニ、勢イ信用制度ニ依スル要求ハ多クナリ、茲ニ北米植民地ニ於テハ紙幣ノ流通殆ンド全ク、而カモ一志、専ラ一七六六年ノ小額紙幣ヲ発行セラレタ。[1] 近世ノ紙幣ニハ

作ノ符号貨幣（Teichengeld）ハカーセージノ華貨デアッタトイフガ、[2] カーセージハ即チフェニキアノ植民地デアッテ、植民地移住民ニ倒ル一般ノ事情ヲ記述スル一班デアル。

尚ホ労働者ノ繁栄ハ人口ノ自然増加及ビ将来ヲ奨励シ、利潤ノ率ハ土地ノ改良並ニ資本ノ蓄積ヲ奨励スル。旦ツ社会状態ノ安定ト（植民地）ナルニ伴イ投資ハイヨイヨ増加シテ、植民地ノ経済組織ハ多数ナル連合ヲ以テ資本主義化（植民工ノ状態ヘト）ス。

漢帆又ハ幼牝[illegible]農業ヨリ発達セラ

1) Smith, A. W. of N. Vol. I. PP. 305–306. 309.

2) Roscher、前出. S. 102–103

ATHENA (4)

業革命の開幕と植民地の理論史は近世理
論の胎生的発展を示すものであって、且つ
その発展たるや経済日子に急激に達せられた
である。米国や露西の発達はその最も顕著な
る例である。十六、七世紀の交はドイツ
アン人の土地に駐殺して野なる社会生活を出
発したるロビンソンクルーソー的の米国は
、一七九〇年の人口三百九十万人であり、
南後百三十五年を経過するに過ぎる今日
米国の独占的富強政策によりてその近くの
頃までに一本の釘一本の馬蹄と雖も輸送
する事の自由を認めざりしもの、南後百三
十五年を経過するに過ぎる今日に於ては、
人口一億万人を超え、その資力世界各国に冠
絶し、国際社会において傍若無人振りを発揮し
得るの一大資本主義国となった。これ実に驚
嘆すべき人物の一大社会的実験である。而し
て米国の如く顕著ではなくとも、すべての地方
の社会は、或る程度に於ては、同様の社会的実
験を吾人に示しつゝあるものである。

39
植
388

~~(dollar)と共に英国!~~ ~~米国は勿論新しい社会的~~
~~植民地的である。~~